

# 北海道におけるワライカモメ *Leucophaeus atricilla* の観察記録

大内 幸奈

## Observation record of the Laughing Gull *Leucophaeus atricilla* in Hokkaido

Ouchi Yukina

### 1. 種名・観察个体数：

ワライカモメ *Leucophaeus atricilla* 1 个体

### 2. 観察者：大内幸奈

### 3. 観察日時・場所：

初認は2024年8月16日、17時10分頃、北海道釧路市星が浦河口部 (43° 00'09.3"N 144° 18'49.3"E) で大内により発見された。その後、釧路市在住の横山氏によると9月18日現在も確認されており、初認から1ヶ月以上は滞在している。

### 4. 観察距離：80~200m

### 5. 観察した環境：

星が浦川河口部では、本流の星が浦川のほか、支流の竜神川と別途前川が流れ込んでいる。合流点より下流からは東側に大きく蛇行したのち、釧路港西港区 第4埠頭に沿って太平洋に流れ込む。干潮時には、あまり大きくはないが干潟が出現する。河口部周辺には草原が広がっており草原性の鳥なども見られる。

### 6. 形態に関する記録：

ユリカモメと同大又はやや大きく、嘴は黒色、足は暗赤色でどちらも太く長い。頭部後方に黒斑があり、背の灰色は同時に観察されたウミネコに近かった。初列風切は後方に突出しているためやや横長な印象を感じた。

### 7. 計測値 —

### 8. 種を同定した基準：

類似種としては、同じワライカモメ属 *Leucophaeus* *Bruch* であるアメリカズグロカモメ *Leucophaeus pipixcan* が該当するが、当个体は体が大きく、背の灰色は濃い。また、嘴や足が黒く長いことから除外できる。他の中型カモメも含め、この特徴はワライカモメしか該当しないため、本種と同定した。

### 9. 観察した行動：

8月16日観察時、周辺にはオオセグロカモメ *Larus schistisagus* 10羽程度、ウミネコ *Larus crassirostris* 20羽程度、アオサギ *Ardea cinerea* 8羽程度、オグロシギ *Limosa limosa* 1羽、イソシギ *Actitis hypoleucos* 4羽、シロチドリ *Charadrius alexandrinus* 2羽がいた。オオセグロカモメやウミネコの群れの中にもあったが、群れから少し離れた河口付近の波打ち際にいることが多かった。時折、地面や水面をつつく様子が確認できたが、

何をついばんでいるのかは分からなかった。観察中、1度だけ河口付近の波打ち際で水浴びをしていた。市内在住の横山氏、及び関根氏によると、9月18日までの間で、度々同地で観察され、河口や海岸だけでなく、岸壁上での休息及び歩行による採食行動がみられた。また、ウミネコが捕獲した魚への略奪行動も見られたという。

### 10. 写真の有無：あり (図1~4)

### 11. 死体・標本の保管場所：—

### 12. 過去の記録とその文献：

日本鳥学会 (2024) によると、本州や硫黄島にAV (accidental visitor) とされている。また、日本鳥学会 (2024) は2019年12月までの記録を基準としているため、それ以降の記録を検索したが、北海道における観察記録は見つからなかったため、今回の飛来が北海道初記録と思われる。

### 13. その他 —

### 14. 考察：

IOC (2024) によると、本種 *L. atricilla* はカナダ南東部海岸からアメリカの東や南西部の海岸、中米メキシコの湾、ベネズエラ周辺の島々などに分布する。また、亜種は2つとされ、*L. a. megalopterus* はカナダ南東部の北大西洋西岸沖合の島々、アメリカのメイン州からフロリダ州、メキシコ湾からテキサス州南部、カリフォルニア南東部のソルトン海、メキシコのカリフォルニア湾からコリマまでとされ、*L. a. atricilla* はアメリカ及びメキシコの西インド諸島、ユカタン半島沖の島々、ベネズエラ北部の島々、トリニダード・トバゴから仏領ギアナまでとされている。当个体は初列風切先端に白斑があることから、成鳥夏羽から成鳥冬羽への移行個体だと考えられる (氏原・氏原2019)。また、氏原・氏原 (2019) によると、成鳥冬羽の亜種 *megalopterus* は通常P6まで黒斑があり、*atricilla* はP5までとされている。撮影された写真を確認すると、明確な黒斑がP6にあることから、亜種 *megalopterus* とみられる。



図.1 河口付近で休息するワライカモメ。



図.4 初列風切P6に明確な黒斑がある (撮影：横山 篤史)。



図.2 歩きながら採食行動をとっている様子。初列風切先端に白斑がみえる。



図.3 小翼羽と初列雨覆に黒斑はない (撮影：横山 篤史)。

### 謝辞

本稿の作成にあたって横山篤史氏、関根琢実氏、直美氏にはワライカモメに関する貴重な写真や観察情報を提供頂いた。釧路市立博物館の貞國利夫氏には貴重な情報と論文の作成方法など細部にわたるご指導をしてくださった。厚く御礼申し上げる。

### 引用文献

- IOC.2024. IOC World Bird List Version 14.2. 閲覧日時 2024年9月20日  
<https://www.worldbirdnames.org/bow/gulls/>  
 氏原巨雄・氏原道昭. 2019. 決定版 日本のカモメ識別図鑑 見分けるポイントが良くわかる. 誠文堂新光社,東京.  
 日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 日本鳥学会誌,東京.